

令和5年度 全国学力・学習状況調査における勝山市の結果について

勝山市教育委員会

令和5年度全国学力・学習状況調査（小学校6年生、中学校3年生対象・4月実施）について、勝山市の児童生徒の結果をお知らせします。

学校と勝山市教育委員会では、「児童生徒が主体の楽しくわかる学び」の実現に向け、ICT機器を効果的かつ効率的に活用し、個別最適な学びと協働的な学びの在り方について研究を進めています。また、個に応じたきめ細やかな指導を行い、児童生徒が安心して学ぶことができる環境づくりに努めています。さらには、お互いに認め合う学級・学校づくりに努め、幅広い交流並びにインクルーシブ教育にも力を入れています。これらの学校教育で培われた力が児童生徒に定着していることを確認する目的で、本調査を行っております。本調査は学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面ではありますが、その結果を有効に活用し、今後の授業改善に役立てていきたいと思っております。

本調査からは、児童生徒の学習状況や生活の様子についても振り返る材料を得ることができます。学力との関連性など、よりよい生活リズムの習慣化に向けて、ご家庭でもぜひ話題にしてください。

【1】勝山市の平均正答率について

本年度の調査は、「小学校 国語・算数」「中学校 国語・数学・英語」において実施されました。

勝山市全体の平均正答率を、福井県および全国の平均正答率とのポイント差(点数差)により比較します。

「高い」>3 3≥「やや高い」>1 1≥「同程度」≥-1 -1>「やや低い」≥-3 -3>「低い」

	教科名	県と比較して	国と比較して
小学校	国語	やや高い	高い
	算数	高い	高い
中学校	国語	同程度	高い
	数学	同程度	高い
	英語	同程度	やや高い

【2】各教科の概要について

<小学校>

	成果	課題
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えること ○目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考と比較しながら、自分の考えをまとめること ○送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使うこと 	<ul style="list-style-type: none"> ▲目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約すること ▲目的に応じて、文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見付けること

算 数	<ul style="list-style-type: none"> ○「以上」の意味を理解し、運動カードから、運動した時間の合計が30分以上である日数を求めること ○示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、30分以上の運動をした日数が「1日」と答えた人数に着目して、分かることを記述すること ○テープを折ったり、切ったりしてできた四角形を意味や性質をもとに判断し、名前を書くこと ○加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりすること ○二次元の表から、読み取ったことの根拠となる数の組み合わせを選ぶこと 	<ul style="list-style-type: none"> ▲高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述すること ▲$(2\text{位数}) \div (1\text{位数})$の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考えること
--------	--	--

【国語】

○健康に過ごすために自分ができそうなことを食事の面から考えている友達の話を聞いて、興味をもった資料に四角や丸、線をつないでどのように整理しているかについて正確に捉えることができました。目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができていたということになります。また、すべての資料を読み、運動と食事の両方について分かったことをもとに、自分なら何ができそうかをしっかりまとめて書くことができていました。自分の考えをまとめて表現する力は、今後、あらゆる場面で必要になってくる力と言えます。

○インタビューの様子の中で、「～ということだと思いますが、合っていますか。」や「～というのは、どのような姿ですか。」のように質問した理由として適切なものを選択することはよくできていました。インタビューした2人がどのような思いでボランティアを続けているのかについて、分かったことをまとめて書くことについても満足いく結果と言えます。記述問題でしたが、無解答率が全国平均や県平均に比べて低かったことは、日頃から分かったことや考えたことを自分の言葉で表現することを大切にしている成果です。

△健康に過ごすために自分ができそうなことを考えてまとめるために使用した、2つの資料に書かれている内容として最も適切なものを選択することが県平均や全国平均に比べ、やや低い結果となりました。複数の資料から内容を読み取ることは、国語以外の教科でもよく出題されます。同じく、2つの資料を読んで分かったことをメモにまとめている内容について正しいものを選択することに課題が見られる結果となりました。この2題においては、資料に書かれている内容を正確に読み取ることが重要であると考えられます。日頃から、要点のメモを取る習慣をつけ、大切なことを確実に捉えることができる力を身に付けていけるとよいです。

【算数】

○運動カードから、運動した時間の合計が30分以上である日数を求める問題がよくできていました。「以上」の意味を確実に理解できている児童が多いということです。30分以上の運動をした日数と人数を6年生だけのグラフと5、6年生をまとめてグラフに表したとき、その2つのグラフの「1日」

と答えた人数に着目して、分かることを書く問題の正答率が県平均や全国平均より高く、無解答率が低いという結果でした。複数のグラフから見出した違いを言葉と数を用いて記述する力が身に付いていることがわかります。

△テープを直線で切ってできた2つの三角形の面積の大小についてわかることを選び、その理由を言葉や数を用いて記述する問題に課題があり、全国平均より低い結果でした。「高さ」という概念が定着していないということが予想されます。テープの幅を高さとして捉えることができるかが鍵となります。普段から多角的なものの見方をすることが、このような記述問題には重要になってくると考えられます。

△ $66 \div 3$ という(2位数) ÷ (1位数)の筆算の仕方を説明した図を基に、筆算の商の十の位にあたる式を選ぶ問題が、県平均、全国平均より低い結果でした。計算の仕方について、機械的に覚えるだけでなく、一つ一つの意味を理解した上で、解く力を付けていけるとよいです。

<中学校>

	成 果	課 題
国 語	<ul style="list-style-type: none"> ○目的や場面を考えて質問する内容を検討すること ○相手の話を受けて発した質問について、述べ方の工夫とその意図を説明したのとして適切なものを選択すること ○聞き取ったことをもとに、目的に沿って自分の考えをまとめること ○事象や行為、心情を表す語句について理解し、適切なものを選択すること 	<ul style="list-style-type: none"> ▲作家がアレンジして現代語で書いた竹取物語を古典の竹取物語と比較して、文章構成や展開、表現の効果など工夫されているところを根拠を明確にして書くこと
数 学	<ul style="list-style-type: none"> ○自然数の意味を理解し、5つの数字の中から自然数をすべて選ぶこと ○数と整式の乗法の計算をすること ○女子50m自由形の記録の、最小の階級から29.00秒以上30.00秒未満の階級までの類型度数を求めること ○与えられた表やグラフから、2つの大学が駅前を通過した時間の差について、グラフの2点のx座標の差として表れるかを書くこと 	<ul style="list-style-type: none"> ▲空間における平面が1つにきまる場合について、同一直線上にない3点で決定されていることを理解し、選択すること ▲yがxに反比例し、比例定数が3のとき、xの値とそれに対応するyの値について、正しい記述を選択すること ▲2つの直線BCと直線AEが平行であることを、三角形の合同を基にして、同位角または錯角が等しいことを示すことで証明すること
英 語	<ul style="list-style-type: none"> ○水問題について話を聞き、話し手の最も伝えたい内容を選択すること ○事実や考えが書かれた英文を読み、考えを表している英文を選択すること ○図書館について書かれた英文を読み、文中の空所に入る適切な語句を選択すること 	<ul style="list-style-type: none"> ▲忘れ物に関する情報を得るために自動音声案内を聞き、最も適切な番号を選択すること ▲疑問詞を用いた一般動詞の2人称単数過去形の疑問文を、与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように完成させること

<p>○ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の最も伝えたい内容を選択すること</p> <p>○動物園でのやりとりの中で、留学生に質問を受け、お土産としてふさわしいものとその理由を伝えること</p>	<p>▲メールの英文を依頼する表現に書き換えること</p> <p>▲学校生活の中から紹介したいものを1つ取り上げ、それを説明するまとまりのある文章を書くこと</p> <p>▲動物園のやりとりの中で、留学生に質問を受け、次の予定を伝えること</p> <p>▲動物園のやりとりの中で、留学生に質問を受け、カンガルーが食べるものについて留学生に質問すること</p> <p>▲環境問題のプレゼンテーションを聞き、話し手の意見に対する自分の考えとその理由を伝えること</p>
---	--

【国語】

○総合的な学習の時間に働くことについて学習した中で、興味をもった会社を訪問してインタビューをするために、事前に準備したメモについて説明したものとして、適切なものを選ぶことがよくできていました。インタビューの中で、知りたい情報に合わせて、自分の経験談を交えながら、さらに聞きたいことを引き出す工夫をしていることを正確に捉えることができていました。インタビューを通して、自分が考えた「社会で働く上で大切なこと」を伝えようとしている場面で、自分なら何を伝えるかを2つの条件にしたがってしっかり表現することができました。記述式でしたが、正答率が9割を超え、無解答率は県や全国の平均より低い結果となりました。

▲現代語訳で書かれている「竹取物語」は、古典の作品である「竹取物語」に作家が工夫を加えたものですが、どこが工夫されているかを表現を取り上げて書くことが、県や全国の平均正答率より低い結果となり、5割を切る正答率でした。条件のうち「作家が工夫したところを見つけ出すこと」はできていたので、その表現にどのような効果や働きがあるのかについてまで、しっかり書くことができるようになるとよいです。

【数学】

○-5, 0, 3, 4.7, 9の5つの中から、自然数をすべて選ぶことは県や全国の平均正答率に比べ高い結果でした。しかし、5割強の正答率であることから、自然数を正確に理解していない生徒が多く存在することになります。基本的な部分を復習し、確実に理解しておくことも重要であると考えられます。12($x/4 + y/6$)の計算は、9割近い正答率で、県や全国の平均より高い結果となりました。特に、無解答の生徒がいなかったことがよいです。

○大学対抗駅伝大会の4地点での記録をまとめた表やグラフをもとに、2つの大学が駅前を通過した時間の差について、グラフのどの2点のx座標の差として表れているかを選択する問題において、県や全国の平均正答率より高い結果でした。表の数値が表す意味とグラフの意味を正確に理解できた結果であると考えられます。多くの情報から問われている内容を読み取る力は、多くの生徒に身に付いてきていると言えます。

▲空間における平面が決まる場合について、1つの直線上にない3点をふくむ平面は1つに決まるこ

との意味が正確に理解できていない生徒が多いという課題が見られました。7割近くの生徒が誤答を選択し、選択問題でありながら無解答の生徒がいました。言葉を頭の中で図式化することが苦手な生徒が多いと考えられます。比例定数が3の反比例の式において、 x の値とそれに対応する y の値について述べている正しい文を選ぶことにも課題が見られました。正答3割に比べ、反比例の x と y の関係を正しく理解できていないため、比例の関係を表す文を選ぶ生徒が4割もいました。

△合同な三角形ABCと三角形DEFの辺ACと辺DFを重ねて平行四辺形を作ったときにできる辺BCと辺AEが平行であることを証明する問題において、合同な2つの三角形をもとにして同位角や錯角が等しいと示して証明することができた生徒が3割に届きませんでした。問題の中に、「合同な2つの三角形をもとにして同位角や錯角が等しいと示して証明することができます。」と記載されていましたが、文章で表現できていないため、証明への苦手意識が強いと考えられます。

【英語】

○水に関する問題という社会的な話題について、短い説明を聞いて要点を捉え、話し手の最も伝えたい内容を選択することがよくできていました。基本的に情報を正確に聞き取る力は、身に付いていると思います。

○自分の住む市にある山について、事実や考えが書かれた英文を読み、考えを表している英文を選ぶ問題の正答率が、県や全国平均を上回りました。考えを表す言葉をしっかり理解できている生徒が多いことになります。事実と考えの区別は、国語としての力も問われます。また、図書館について書かれた英文を読み、文と文との関係から、空所に入る言葉を選択する問題とロボットについて書かれた英文を読み、書き手の最も伝えたい内容を選択する問題はよくできていました。文脈や文章の内容を読み取る力は、できるだけ多くの文章と向き合うことで身に付くと考えられるので、読む活動を大事にしていけるとよいです。

▲日常的な話題について、目的に応じて英語を聞く問題では、場面設定がイメージしづらいときに、正答率が低くなる傾向があると考えられます。忘れ物をしてショッピングセンターへ問い合わせたという場面で、自動音声案内の全てを聞き取ろうとするのではなく、自分が必要とする情報は何かを把握することが重要です。その上で必要とする情報に関連する語句や表現に着目して聞き取ることが大切です。

▲書くことの問題すべてにおいて正答率が低く、また県や全国平均より低い結果となりました。場面や状況から文の形式や時制を適切に判断し、疑問詞を用いた一般動詞の2人称単数過去形の疑問文を書くことに課題が見られました。また、学校生活の中から紹介したいものを取り上げて、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことにも課題がありました。すべての教科での自分の考えを表現する活動の充実と、自分の考えを英語で適切に表現する機会の充実に努めていきます。

▲話すことの問題においてはほとんどの問題で正答率が低いという結果になりました。会話の中で、伝えたり、質問したりすることができませんでした。また、環境問題のプレゼンテーションを聞いて、話し手の意見に対する自分の考えとその理由は、ほとんどの生徒が正確に話すことができませんでした。友達の意見と比較したり、よりよい意見をまとめたりする活動は、日頃からよく行っているため、英語で表現する機会を充実させ、自分の考えを適切に英文にする力をさらに高めていきます。

【3】児童生徒質問紙について

(1) 「良好な点」と「改善したい点」について

生活態度面や全般的な学習態度面の調査結果について、「良好な点」として、昨年度と比較して改善が見られるものや県・全国の平均値と比べて明らかに上回ったものを中心に、「改善したい点」として、昨年度と比較してよくない結果となったものや県・全国の平均値と比べて明らかに下回ったものを中心にまとめました。

<小学校>

良好な点	改善したい点
<p>○寝る時間が決まっている児童の割合は大幅に増加し、県や全国平均と比べ高い。(R4 78.4% → R5 87.3%) (市 87.3% 県 84.6% 国 81.0%)</p> <p>○「先生は、あなたのよいところを認めてくれている」と感じている児童の割合は増加し、県や全国平均と比べ高い。 (R4 94.2% → R5 97.5%) (市 97.5% 県 92.8% 国 89.8%)</p> <p>○「将来の夢や目標を持っている」と答えた児童の割合は増加し、県や全国平均と比べ高い。 (R4 85.0% → R5 89.8%) (市 89.8% 県 83.9% 国 81.5%)</p> <p>○「学校に行くのは楽しい」と答えた児童の割合は昨年度とやや増加し、「あてはまらない」と答えた児童は1人もいない。 (R4 89.5% → R5 91.1%) (R4 2人 → R5 0人)</p> <p>○「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と答えた児童の割合は、県や全国平均と比べ高い。 (市 86.6% 県 81.6% 国 76.5%)</p> <p>○「家で自分で計画を立てて勉強をしている」と答えた児童の割合が増加している。(R4 72.5% → R5 80.2%)</p> <p>○新聞を読んでいる児童の割合は、昨年度に比べ大幅に増え、県や全国平均と比べかなり高い。 (R4 25.5% → R5 39.5%) (市 39.5% 県 16.1% 国 12.6%)</p> <p>○「今住んでいる地域の行事に参加している」「地域や社会をよくするために何かをしてみたい」と答えた児童の割合は、県や全国平均と比べ高い。 (行事参加：市 89.8% 県 74.8% 国 57.8%) (何かをしたい：市 88.5% 県 81.6% 国 76.8%)</p> <p>○「外国人と友達になったり、外国のことをもっと知ったり</p>	<p>▲「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談ができる」と答えた児童の割合が減少している。 (R4 71.9% → R5 69.3%)</p> <p>▲「読書は好き」と答えた児童の割合は、昨年度より減少している。 (R4 73.2% → R5 68.8%)</p> <p>▲「家庭学習の課題(宿題)として、どの程度PC・タブレットなどのICT機器を使用して、英語の音声を聞いたり英語を話す練習をしたりしていますか。」の質問に対し、ほぼ毎日・週3回以上と積極的に使用している児童の割合が、県や全国平均と比べて低く、「行っていない」と答えた児童が6割もいる。 (市 10.2% 県 10.7% 国 14.0%)</p> <p>▲算数において解答時間は十分と答えた生徒の割合は、県や全国平均と比べやや低い。 (市 83.8% 県 85.5% 国 84.5%)</p>

したい」「住んでいる地域のことを外国人にもっと知ってもらいたい」と答えた児童の割合が、県や全国平均に比べかなり高い。

(友達・知る：市 81.6% 県 74.9% 国 72.5%)

(知ってもらう：市 91.7% 県 82.2% 国 78.1%)

○「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができている」と答えた児童の割合は、県や全国平均に比べ高い。

(市 89.8% 県 85.5% 国 81.8%)

○「学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」と答えた児童の割合は、県や全国平均に比べ高い。

(市 90.5% 県 84.1% 国 77.4%)

○「授業で学んだことを、ほかの学習で生かしている」と答えた児童の割合は、県や全国平均に比べ高い。

(今年度からの質問項目)

(市 90.4% 県 86.1% 国 81.9%)

○「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発展するなどの学習活動に取り組んでいる」と答えた児童の割合は、県や全国平均に比べ高い。

(市 86.0% 県 80.2% 国 74.8%)

○「学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている」と答えた児童の割合は、県や全国平均に比べ高い。

(市 87.2% 県 80.4% 国 77.2%)

○「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる」と答えた児童の割合は、県や全国平均に比べ高い。

(市 89.2% 県 81.3% 国 75.7%)

○「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる」と答えた児童の割合は、県や全国平均に比べ高い。

(市 95.5% 県 88.7% 国 83.6%)

○国語と算数の勉強は好きと答える児童の割合が増加し、県や全国平均と比べ高い。

(国：R4 67.4% → R5 73.9%

市 73.9% 県 66.4% 国 62.5%)

(算：R4 70.0% → R5 74.1%

市 74.1% 県 66.1% 国 61.4%)

<p>○国語と算数の授業の内容はよくわかると答える児童の割合が増加し、県や全国平均と比べ高い。</p> <p style="text-align: center;">(国：R4 91.5% → R5 96.2% 市 96.2% 県 91.5% 国 85.7%)</p> <p style="text-align: center;">(算：R4 88.9% → R5 96.2% 市 96.2% 県 87.4% 国 81.2%)</p> <p>○国語において解答時間は十分と答えた生徒の割合は、県や全国平均と比べ高い。(市 73.5% 県 70.3% 国 64.1%)</p>	
---	--

- 「寝る時間が決まっている」と答えた児童の割合が大幅に増加したのは、ご家庭において規則正しい生活習慣を身に付けるために、保護者のみなさまにご協力いただいたおかげです。規則正しい生活習慣は、学習の能率をあげることにつながるため、学力調査の結果にも直結していると考えられます。今回の結果にも大きく関わっていると言えます。今後ともお子様と生活リズムについて考える機会を定期的にもっていただけるとありがたいです。
- 9割の児童が、現段階で夢や目標をもって日々がんばっています。残りの1割の児童も、様々な学習や活動を通して、自分にとってのやりがいを探しています。将来の夢や目標をしっかりとつことで、今、努力すべきことが明確になり、学習意欲を高める、維持することにつながります。すべての児童に活躍する機会を提供し、夢や目標がさらに広がる支援を進めていきます。
- 「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と感じている児童が多いことは、昨年度から市内の全小中学校で取り組んでいる“協働的な学び”の充実が大きく関わっていると考えられます。また、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができている」「学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」「授業で学んだことを、ほかの学習で生かしている」など、主体的に学んでいることが伺える質問項目すべてで、肯定的な意見の割合が県や全国平均を上回りました。自分の意見を友達の意見と比較し、さらに深めたり広げたりしていこうという学習のスタイルが定着してきたと言えます。自分の意見に根拠をもって、自信をもって積極的に表現できる児童が増えるよう、1人1人の考えを大事にしていきます。
- 家で自分で計画を立てて勉強をしている児童が8割を超えています。主体的に学ぼうとする意欲があることがわかります。計画を立てて実行することは、中学校、高等学校においてもさらに求められる力ですので、学校と家庭で連携しながら見通しをもった生活を送ることができるよう支援していけるとよいです。
- 昨年度に引き続き、地域の行事に積極的に参加したり、地域をよくするためにできることを考えたりする児童の割合は、県や全国平均と比べてもかなり高い結果となりました。継続して取り組んでいるESDの取り組みの成果だと言えます。将来もふるさとを愛する気持ちを持ち続け、行動できる人材を育てていくためには、とても重要な学びと言えます。今後は、自分たちにできることだけでなく、すべきこと、する必要のあることにも目を向け、世界的な視野で学びを進めることができるよう支援していきます。
- 今回、国語と算数については、「好き」「授業の内容がよくわかる」と答えた児童の割合が、県および全国平均と比べ高い結果でした。国語、算数ともに高い正答率であったことと相関関係があると考えられます。「好き」「楽しい」が学ぶ意欲の源であることを、教員一同が共通理解のもと、勝山市の全児童の

学びを充実させていきます。

- ▲「先生は、あなたのよいところを認めてくれている」と感じている児童の割合は増加しているのに、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談ができる」と答えた児童の割合が減少しています。大勢の児童がいる中だと話すタイミングも逃しやすいでしょうし、定期的に相談できる機会を設定するなど、1人で抱え込まない環境づくりに努めてまいります。
- ▲新聞を読んでいる児童が、県や全国平均に比べ多い結果となりましたが、逆に読書を好きと答えた児童の割合が低下したことが気になります。学校において、新聞を活用した取組を継続して行っている成果と言える反面、読書習慣が身に付いておらず、読書のおもしろさを感じる児童が少ないという現状です。各学校において、読書の楽しさを感じることができる取組を工夫していきます。家庭においても、テレビやインターネットばかりでなく、家族で読書をする時間を確保するなどの工夫をしていただくとありがたいです。
- ▲家庭学習として、PC・タブレットなどのICT機器を使用して、英語の音声を聞いたり英語を話す練習をしたりしている割合が低いことから、1人1台端末が十分に活用されていないということがわかります。端末に入っているデジタル教科書は、英語の音声を聞いたり、話す練習をしたりする絶好のツールですので、どんどん活用していけるよう支援していきます。

<中学校>

良好な点	改善したい点
<p>○「家で自分で計画を立てて勉強をしている」と答えた生徒の割合は増加し、県や全国平均と比べ高い。 (R4 55.8% → R5 64.8%) (市 64.8% 県 54.7% 国 55.6%)</p> <p>○「今住んでいる地域の行事に参加している」「地域や社会をよくするために何かをしてみたい(昨年度、地域のために何をすべきか考える:47.8%)」と答えた生徒の割合は、県や全国平均と比べかなり高い。 (行事参加:市 64.7% 県 48.1% 国 38.0%) (何かをしたい:市 74.0% 県 70.0% 国 63.9%)</p> <p>○学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う生徒の割合は、増加している。 (R4 87.7% → R5 95.1%)</p> <p>○1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え自分から取り組んでいたと答える生徒の割合は増加し、県や全国平均と比べ高い。 (R4 81.6% → R5 89.4%) (市 89.4% 県 83.8% 国 79.2%)</p> <p>○1、2年生のときに受けた授業では、各教科で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていたと答える生徒の割合は増加し、県や全国平均</p>	<p>▲「毎日、同じくらいの時刻に起きている」生徒の割合は減少し、県や全国平均と比べ低い。 (R4 92.0% → R5 89.2%) (市 89.2% 県 93.0% 国 91.3%)</p> <p>▲「自分にはよいところがある」と答えた生徒の割合は、県や全国平均と比べ低い。 (市 78.9% 県 83.1% 国 80.0%)</p> <p>▲「学校に行くのは楽しい」と答えた生徒の割合は減少し、県や全国平均と比べ低い。 (R4 89.0% → R5 78.9%) (市 78.9% 県 84.9% 国 81.8%)</p> <p>▲国語の勉強は大切だと思う生徒や学習したことは将来、社会に出たときに役立つと思う生徒の割合は減少し、県や全国平均と比べ低い。 (大切:R4 92.7% → R5 91.6%) (役に立つ:R4 92.7% → R5 88.0%) (市 91.6% 県 92.8% 国 92.4%)</p>

<p>と比べ高い。(R4 77.3% → R5 82.4%) (市 82.4% 県 76.3% 国 69.1%)</p> <p>○「学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」と答えた生徒の割合は増加し、県や全国平均に比べ高い。(R4 77.9% → R5 83.1%) (市 83.1% 県 75.4% 国 69.2%)</p> <p>○「授業で学んだことを、ほかの学習で生かしている」と答えた生徒の割合は、県や全国平均に比べ高い。 (今年度からの質問項目) (市 80.3% 県 74.7% 国 69.9%)</p> <p>○「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発展するなどの学習活動に取り組んでいる」と答えた生徒の割合は増加し、県や全国平均に比べ高い。 (R4 79.2% → R5 87.3%) (市 87.3% 県 81.0% 国 72.6%)</p> <p>○「学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている」と答えた生徒の割合は増加し、県や全国平均に比べ高い。(R4 81.6% → R5 89.4%) (市 89.4% 県 83.6% 国 77.9%)</p> <p>○数学の勉強が好き、授業の内容はよく分かると答えた生徒の割合は増加し、県や全国平均に比べ高い。 (好き：R4 63.8% → R5 68.3% 市 68.3% 県 58.8% 国 56.7%) (よくわかる：R4 86.5% → R5 89.4% 市 89.4% 県 78.3% 国 73.3%)</p> <p>○英語の勉強が好き、授業の内容はよく分かると答えた生徒の割合は、県や全国平均に比べ高い。 (好き：市 58.4% 県 51.2% 国 51.9%) (よくわかる：市 74.6% 県 63.7% 国 63.9%)</p> <p>○授業やそのための学習以外で、日常的に英語を使う機会が十分であると答えた生徒の割合は、県や全国平均と比べ高い。(市 38.0% 県 30.4% 国 30.0%)</p>	<p>市 88.0% 県 92.2% 国 88.7%)</p> <p>▲1、2年生のときに受けた英語の授業に関する質問の7項目のうち4項目において、肯定的な解答の割合が県や全国平均と比べ低い。 (英語を聞いて概要や要点をとらえる活動を行う： 市 73.3% 県 77.8% 国 78.2%) (英語を読んで概要や要点をとらえる活動を行う： 市 78.2% 県 80.4% 国 80.1%) (聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする活動を行う： 市 75.4% 県 82.2% 国 80.7%) (聞いたり読んだりしたことについて、内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする活動を行う： 市 76.7% 県 82.1% 国 79.3%)</p> <p>▲3教科ともに解答時間は十分と答えた生徒の割合は、県や全国平均と比べ低い。 (国：市 75.0% 県 81.2% 国 75.3%) (数：市 71.0% 県 78.6% 国 75.0%) (英読書： 市 65.1% 県 71.0% 国 68.6%) (英話：市 33.6% 県 42.3% 国 45.5%)</p>
---	--

○小学校同様、昨年度から今年度にかけて、家で自分で計画を立てて勉強をしている生徒が増えました。昨年度より主体的に学ぶことを大切にしてきた結果であると思われます。社会に出てからも計画的に行動する力はとても重要です。引き続き、先を見通す力や計画的に進める力を育む支援をしていきま

す。

○小学校同様、地域の行事に積極的に参加したり、地域をよくするためにできることを考えたりする生徒の割合は、県や全国平均と比べてもかなり高い結果となりました。特に、昨年度「地域のために何をすべきか考える」という項目において、肯定的な回答の生徒の割合が5割に満たなかったのですが、今年度の「地域や社会をよくするために何かをしてみたい」という項目において、肯定的な回答の生徒の割合は7割を超え、大幅に増加しました。住んでいる地域をよくしたいという思いは、多くの生徒がもっているようです。その気持ちを大切に、未来の勝山市のために行動できる人材育成に努めてまいります。

○授業において、課題解決に自ら取り組んだり、他教科との関連を考えながらまとめたりする主体的な学びが定着してきたことがわかる結果が多く見受けられました。主体的な学びは、生徒にとって印象深く、定着しやすいものであると考えられます。また、次につなげようとする意欲になります。現在、各学校で研究を進めている、個別最適な学びや協働的な学びの充実をさらに進め、自分にあった学び方の選択ができるよう支援してまいります。

○学級をよりよくするための話し合いに互いの意見のよさを生かすことができていると感じている生徒が多いことは、自分の考えを積極的に表現できる環境であるということです。多くの生徒が積極的に表現できる環境とは、周りが意見に耳を傾けてくれると感じることができ、安心して過ごすことができる環境であると言えます。今後も1人1人を大切に、互いを尊重し合える仲間づくり、絆づくりを進めていきます。

○▲数学と英語は、「好き」「内容がよくわかる」と答えた生徒が増加し、県や全国平均と比べても高い結果であったことは、喜ばしいことです。特に、授業や学習以外で、日常的に英語を使う機会が十分にあると感じている生徒の割合が、県や全国平均と比べて高いことから、英語に対して前向きな生徒が多いことがわかります。この質問紙の割合と学力調査の正答率は乖離しているため、教科で分析したことを今後の学習に生かしていく必要があります。

▲学校に行くのは楽しいと答えた生徒の割合が、昨年度と比べ大幅に減少しました。楽しいと感じることは人それぞれ違うと思いますが、コロナ禍での行事や人との交流の制限が大きく影響していると考えられます。目の前の生徒全員が楽しいと感じることを増やすために、1人1人に寄り添った学校経営、学級経営を意識して教育活動を進めていきます。

▲英語の授業の内容において、概要や要点を捉える活動や聞いたり読んだりした内容を英語で書いてまとめたり、自分の考えを英語で書いたりする活動など、多くの項目で行っていると感じている生徒が県や全国平均と比べて低い結果となりました。今後、英語の正答率を県や全国平均を大きく上回るためには、このような活動のさらなる充実が必要であると考えられます。この結果を受け止め、すべての教科で言語活動の充実を図り、授業改善に努めます。

(2) 正答率との間に関連が見られた質問項目について

ここ数年の分析と今年度、特に気になった点から、教科の正答率と相関関係が見られた項目について、主なものを8例まとめました。ぜひ、ご家庭でも話題にとりあげてください。

なお、右側の欄内のポイント数は、各項目について「している」「当てはまる」と答えた児童生徒と、「全くしていない」「当てはまらない」と答えた児童生徒との平均正答率のおおよその差を、教科ごとに示したものです。

項 目	教科ごとの正答率の差	
就寝時刻が定まっている児童生徒は正答率が高い。 2回連続同じ傾向 中学英語は今年度のみ	小学国語	7ポイント差
	小学算数	15 "
	中学国語	11 "
	中学数学	13 "
	中学英語	22 "
家で、自分で計画を立てて勉強している児童生徒は、正答率が高い。 5回連続同じ傾向 中学英語は今年度のみ	小学国語	13ポイント差
	小学算数	3 "
	中学国語	13 "
	中学数学	18 "
	中学英語	19 "
読書が好きな児童生徒は、正答率が高い。 3回連続同じ傾向 中学英語は今年度のみ	小学国語	11ポイント差
	小学算数	17 "
	中学国語	11 "
	中学数学	11 "
	中学英語	6 "
前学年までに受けた授業において、うまく伝わるように、理由を示したり、資料や文章、話の組み立てを工夫したりしていると答えている児童生徒は、正答率が高い。 7回連続同じ傾向	小学国語	10ポイント差
	小学算数	20 "
	中学国語	33 "
	中学数学	30 "
	中学英語	17 "
「前学年までに受けた授業において、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」と答えている生徒は、正答率が高い。 4回連続同じ傾向	中学国語	40ポイント差
	中学数学	32 "
「前学年までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間になっていた」と答えている児童生徒は、正答率が高い。 3回連続同じ傾向 中学英語を除く	小学国語	7ポイント差
	小学算数	9 "
	中学国語	6 "
	中学数学	5 "
自分と違う意見について考えるのは楽しいと感じている児童生徒は、正答率が高い。 3回連続同じ傾向	小学国語	4ポイント差
	小学算数	7 "
	中学国語	21 "
	中学数学	41 "
学級の友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると答えた生徒は、正答率が高い。 3回連続同じ傾向	中学国語	38ポイント差
	中学数学	25 "
学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていると答えた生徒は、正答率が高い。 2回連続同じ傾向	中学国語	51ポイント差
	中学数学	47 "

<p>学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると答えた児童生徒は、正答率が高い。</p> <p>3回連続同じ傾向</p>	<p>小学国語 11ポイント差</p> <p>小学算数 15 "</p> <p>中学国語 19 "</p> <p>中学数学 13 "</p>
<p>「〇〇の勉強は好きだ」と答えている児童生徒は、正答率が高い。</p> <p>国語と算数・数学は3回連続同じ傾向</p> <p>中学英語は今年度のみ</p>	<p>小学国語 13ポイント</p> <p>小学算数 25 "</p> <p>中学国語 7 "</p> <p>中学数学 19 "</p> <p>中学英語 21 "</p>

○基本的な生活習慣に関する結果を見ると、就寝時間が定まっている児童生徒は正答率が高いという結果が昨年度と今年度に共通して見られました。昨年度まで、起床時間が定まっている児童生徒は、正答率が高いという傾向が7回連続で見られました。全体的に捉えると、やはり規則正しい生活を送ることは、学習を計画的に行うことにつながり、学習を効率よく進めることにもつながることがわかります。年齢が上がると生活習慣が乱れやすくなることを考えると、中学生の結果がより顕著であるので、早寝早起きは重要な要素であると考えられます。朝ごはんを毎日食べることについては、小学生では、「全くしてない」と答えた児童はいませんでした。中学生では、3人もおり、正答率にも大きな差がありました。やはり食べる食べないとは、授業に対する集中力ややる気が変わってくるものと思われまます。自分で自分を管理しきれない小学生段階では、保護者の手助けが重要になってきます。学年が上がるにつれて、自分で判断し、行動に移すことができる力をつけていけるよう、学校と家庭が共通理解のもとお子さんを支援していけるとよいです。中学生では、見通しをもって行動する力が求められます。おのずと主体的に行動する力が身に付くよう、毎日のスケジュール管理や考査前の計画など、工夫しながら進めていきます。

○3年連続、読書が好きな児童生徒に、正答率が高い傾向が見られます。読書は活字に触れる機会であり、様々な文章から内容を的確に読み取ることとその内容に対して自分の考えをもつことがすべての学習の基盤になってくるものと考えられます。新聞を読むことも含め、活字に触れる機会は確保していきたいものです。

○前学年までに受けた授業に関する質問で、①「うまく伝わるように理由を示したり、話の組み立てを工夫したりしている」②「課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」③「自分にあった教え方、教材、時間になっていた」の項目は、ここ数年連続で否定的な回答をしている児童生徒に比べ、肯定的な回答をしている児童生徒の正答率がかなり高いという結果でした。学習に対し、主体的に取り組んでいることを自覚している児童生徒は、学力が定着していることの証拠です。得意な学習、好きな教科だけでなく、すべての取組に対して、自分にあったやり方で自分のものにしていく根気が身に付くとすばらしいです。

○自分と違う意見について考えたり、話し合いを通じて自分の考えを深めたり、広げたり、互いの意見のよさを生かして解決方法を考えたりするなど、意見の交流を大切にして、自分の考えをよりよいものにしていこうとすることは、深い学びを実現していくためには欠かせない要素であると考えられます。協働的な学びが、多様な考え方や意見を生み出すためには重要であるので、今後も学び合う場面を多く設定していきます。

○好きな教科の正答率が高いという傾向は、毎年変わらず見取ることができます。好きな教科は意欲的に

学習できるため、おのずと正答率はあがります。好きな教科をつくるためには、興味や疑問をもって学習に臨むことが鍵になってくると考えます。難しい＝苦手ではなく、難しい問題を解くことができた達成感を味わうことも重要です。児童生徒が難しい課題に立ち向かう力、解決する力をつけるための支援を引き続き行っていきます。

○タブレット端末を用いることは、学習の中ではごく自然に行われるという感覚になってきていると思われれます。児童生徒が使っている姿を見ても想像以上にスムーズです。学習ツールの1つとして自然に選択できるまでになってきたことは大変よいことです。今後は、ICTをよりよく使いこなせる情報化社会を生きる人として、判断力を磨き、責任を持って利用する児童生徒が育つための支援（デジタルシティズンシップ教育）を充実させていきます。

【4】今後の方針について

(1) 学校で取り組むこと

※以下のもの以外にも、各校の方針があります。

<ア>安心して、楽しく学習や活動に取り組める環境づくり

1番大切にしたいこととして、児童・生徒が安心して学習や活動に取り組むことができる環境を提供できるよう、全教職員が共通理解のもと教育活動を進めていきます。そのためにも、1人1人を大切にしたい学級経営や授業づくりに努めます。また、いじめや不登校等を生まない「魅力ある学校づくり」にも力を入れていきます。児童・生徒は、お互いのよいところを認め合い、他人への思いやりの心が育つよう支援していきます。また、個性を大切に、多様性を認め合う心を養いながら、人と人とのつながりを意識し支えあう中で、共生社会の実現を目指していきます。不安や問題を抱えている児童生徒に対しては、関係機関および家庭との連携のもと、気持ちに寄り添った支援を迅速に行っていきます。

<イ>児童生徒が主体の楽しくわかる学びの推進

学力の向上には、児童生徒が主体的に学ぶことが不可欠です。主体的な学びを進めるためには、自ら課題を設定し、ICTを活用して情報を集め、それらを整理しながら、友達と意見交流や考えを共有する中で、自分なりの答えをまとめ、表現するといった学習展開が必要です。すべての教科で、既習事項を生かしたり、疑問に思ったことを追究したりしながら、さらに次の学びへつなげていけるよう支援します。児童生徒1人1人の学びの進捗状況や良い点を教員が積極的に評価し、学習意欲の向上に努めるとともに、指導の過程や成果の評価を授業改善に生かしていきます。

<ウ>今回から始まった英語の「話すこと」オンライン調査について

3年に1度行う英語の学力調査において、今年度初めて、オンラインにて解答する「話すこと」の調査を実施しました。日頃、授業の中で、担当教員やALT、友達とコミュニケーションを取る機会はしっかり確保され、英語で話すことを楽しんでいる場面は多く見られます。ただ、調査では改まって質問されることに対して、正確に答えようとする緊張感からか、全体的に見て、課題の残る結果となりました。コミュニケーションの内容を充実させていくことはもちろん、新しいシステムでの解答に慣れることも大切な要素であると考えられます。タブレットを活用し、「話すこと」の問題に取り組むことができる学習環境を整備していきたいと思えます。

(2) ご家庭にお願いしたいこと

<ア>規則正しい生活習慣の定着

毎年お願いをしていますが、児童生徒の学力向上のベースは規則正しい生活習慣であると考えます。健全な学校生活を送ることができてこそ、学力の定着が図れるのです。小学校低学年では、見通しを持てるように手厚く支援していただき、小学校高学年では、少しずつ自分で判断して実践することを増やしていきながら、中学生では、自分のことは自分で管理し、責任ある行動をすることができるようになることが理想です。生活習慣の大切さを児童生徒自身が理解できれば、週末や長期休業で生活リズムが崩れることも少なくなると思われます。“規則正しくしなければならない”ではなく“規則正しい生活がしたい”と思えるような感覚を身に付けることができるよう、今後とも見守り、支えてくださいますようお願いいたします。

<イ>児童生徒の学習状況の把握

学校は、学期に1度お子様の学習の状況を保護者の方にお伝えしています。何が得意で、何に力を入れていくとよいのかを、学校生活の中での成長をわかりやすく伝えるように努めています。ご家庭においても学習の内容を話題に挙げ、お子様の口で語らせてください。そして、今何をがんばっているのかを把握をしていただけるとありがたいです。把握していただくと保護者懇談でお話していることをより深くご理解いただけることと思えます。学校と家庭で一緒にお子様のがんばりを認めていけると、より自信を持つことにつながると思えます。

<ウ>学校と家庭の連携 関係機関との連携

学校では、安心して過ごすことができる環境づくりに努めていますが、問題が全く起こらないようにすることは困難です。いじめ等の問題行動や不登校等の未然防止には、学校と家庭が連携し、できるだけ早く発見し、対応していくことが欠かせません。何か気がかりなことがありましたら、些細なことでも学校に連絡相談いただくと助かります。大きな問題になる前に防ぐことができることは、児童生徒に関わるすべての方の協力で防ぎたいと考えます。また、問題が起こったときに、専門的な機関との連携も重要になってきます。保護者の方の理解のもと進めていきたいと考えております。

以上の点につきまして、ご協力をお願いいたします。

【5】結び・おわりに

今年度の結果は、全国平均と比較すると小中すべての教科で「高い」「やや高い」、県平均と比較すると小学校では同じく「高い」「やや高い」、中学校では、「同程度」という結果でした。児童生徒が日頃から学習に対し前向きに取り組んでいることの表れであると思えます。児童生徒の主体的な学びに向かう姿勢が育っているということは、支援している教職員が一番感じ取っていることです。学びには、新しい発見や驚き、疑問をもつことが大切です。結果のみに一喜一憂することなく、新しい知識や考えが備わっていく過程を自ら楽しみながら学ぶことができる児童生徒が育つようこれからも支援していきます。

質問紙調査を分析していくと感じられる「不易と流行」があります。不易＝昔から変わらない部分としては、規則正しい生活を送ることができる児童生徒、すなわち自己管理能力が備わっている児童

生徒は、計画的に学習に取り組むことができるだけでなく、学習時間に対する効果も高いものであるということです。流行＝時代とともに変わりゆく部分は、主体的な学びをどう捉えているかによって、学びの質が変わるということです。自分の中だけで、「わかったから終わり」ではなく、これまで学んだことをもとに、友達の考えをもとに、などよりよい答えを追究していく姿勢や意識があると、学ぶことが楽しくなると考えられます。両方を大事にした「学びの在り方」を全教職員で追究していきます。

この全国学力・学習状況調査では、児童生徒の学びの成果の一部を調査したに過ぎませんが、大きく変化し続ける社会を生き抜くための力を育成するためには、小中学生の間に主体的に学びに向かい、困難な課題にも立ち向かって解決する力を付けていくことが重要になります。そうした観点から、この調査の結果を各校でもより具体的に分析しながら、より一層、学力向上に努めてまいります。

保護者の皆様をはじめ市民の皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。